

生理機能検査

生理機能検査は、生体の機能を調べる検査で、
身体から得られた波形や画像を基に解析します。
主な検査には、心電図検査、呼吸機能検査、
脳波検査や超音波（エコー）検査などがあります。



1. 心電図検査

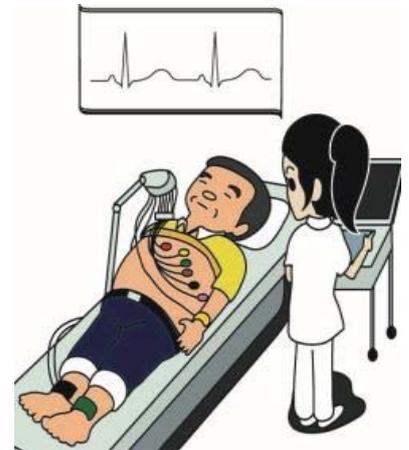
①心電図・負荷心電図検査

心電図検査は、心臓が動いている時に出る微弱な電気を、胸と手足に付けた電極から捉えた波形を記録します。脈の乱れ（不整脈）、胸の痛み（狭心症）などの原因や病気の診断のために調べます。

負荷心電図検査は、安静時の心電図を記録した後、一定時間踏み台をリズムに合わせて上り下りし、運動前後の心電図波形の変化を見ます。

狭心症の有無やお薬の効き具合などを調べます。

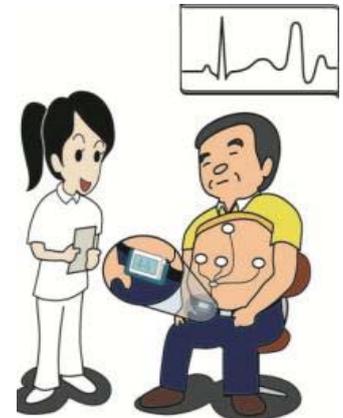
（検査時間は5分から15分程度）



②ホルター心電図検査

シールの電極を胸に貼り付け、小型の記録機で24時間の心電図を記録します。日常生活の中でどのような不整脈が出ているか、また胸が痛い時に心電図の変化がどうかを調べることができます。検査中は主な行動（就寝、起床、食事、トイレ、仕事、症状など）を記録（メモ）していただきます。

（検査時間は機器の装着・説明に15分程度）



2. 呼吸機能検査

肺・気管支及び呼吸筋の状態や働きを調べる検査です。息を大きく吸い込んだり、吐き出したりします。この検査は最大限に努力した状態をみますので、何回か同じ検査を行っていただくことがあります。

（検査時間は検査の種類によって10分から30分程度）



3. 脳波検査

小さな電極を頭皮にたくさん貼り付けて検査をします。
音や光の刺激を与えて検査する場合があります。
脳から出る微弱な電気変化を波形として記録し、
脳の活動状態やてんかんなどの診断、
治療効果の判定に役立てます。

(検査時間は1時間程度)



4. 超音波(エコー)検査

超音波検査とは、超音波を体の表面から当てて画像として表示し、様々な情報を詳しく得ることができる検査です。

この検査は患者さんへの負担が少ない検査です。

(検査時間は検査の内容により20~40分程度)

①心臓

心臓の動き、弁の状態、血液の流れの状態や心臓の機能を調べます。
心電図だけではわかりにくい、いろいろな心臓の異常がわかります。

②腹部

肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓などの内臓の状態をみます。詳しく観察するために体の向きを変えたり、息を吸ったり吐いたりしていただきます。
原則として、空腹状態で検査を行います。



③その他

乳房や甲状腺、頸動脈や下肢静脈などの状態をみる超音波検査もあります。

5 尿素呼気試験 (UBT)

呼気を採取して胃の中にピロリ菌がないか調べます。

一般的に除菌療法後4週間以降に行い、除菌判定に用いられます。

検査当日の飲食は検査終了まで避けてください。

(検査時間は30分程度)